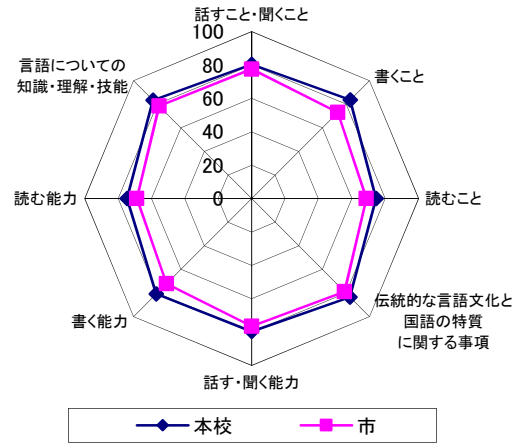


宇都宮市立一条中学校 第3学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	話すこと・聞くこと	80.4	77.6	76.3
	書くこと	83.6	73.0	56.1
	読むこと	74.6	68.8	63.9
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	83.4	78.8	71.6
観点別	話す・聞く能力	79.6	76.5	75.4
	書く能力	80.9	72.0	58.1
	読む能力	74.6	68.8	63.9
	言語についての知識・理解・技能	83.4	78.4	70.9

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

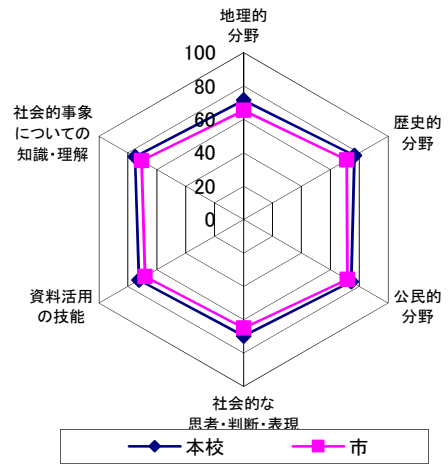
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	<p>全ての設問において、平均正答率が市を上回っている。</p> <p>○「話の内容を正確に聞き取る」設問では90.2%、「聞き手に理解してもらうための話の工夫を聞き取る」では88.6%と高い正答率であった。定期的実施している「聞き取りテスト」により「話の内容を正確に聞き取る」訓練はされていると考えられる。</p> <p>●「話し手の意見に対して自分の考えを持ち、質問する」の設問では、正答率が69.3%と全体の7割に届かなかった。</p>	<p>○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの</p> <p>・今後も聞き取りテストは継続していく。</p> <p>・「他者の意見に対して自分の考えを持つ」という学習活動は他領域においても実践していたが、今後はさらに、そこから生じた疑問をもとに課題を設け、深化させる学習に発展させる。</p>
書くこと	<p>平均正答率は4領域の中で最も高く、全ての設問において市の平均を上回っている。</p> <p>○「指定された文字数で書く」については平均正答率が88.6%で市を14.4ポイント上回っており、9割近い生徒が字数の条件を満たして書けている。</p> <p>また、「3段落構成で書く」についても平均正答率は83.0%で、市を13.8ポイント上回っている。意見文を書く学習活動では、構成を意識したワークシートを活用し指導しているため、「主張」「根拠」「まとめ」の構成が身についていると思われる。</p> <p>●「自分の取った立場の理由を書く」については、正答率は68.9%と7割に満たなかった。</p>	<p>・より説得力のある根拠の述べ方や事例の示し方などを実践的に指導していく。</p> <p>・今後、意見文以外の形式についても授業の中で触れ、場面や目的に合わせた文章を書く練習をする。</p>
読むこと	<p>全ての設問において市を上回っているものの、本校内の領域別で見ると、平均正答率は最も低い。</p> <p>○記述問題と選択問題とで平均正答率を比較してみると、市では記述問題の正答率が選択問題を大きく下回っているが、本校ではその差はほとんど見られない。</p> <p>●「登場人物の心情を捉える」については、比喻を用いた表現から心情を捉える設問で52.3%と低い正答率だった。</p>	<p>・文章読解問題に苦手意識を抱いている生徒が多い。授業の中で教科書に掲載されている教材を理解できても、テスト等に出題されると点数が取れない。答えを組み立てる際のキーワードの探し方や文末のまとめ方などを、それぞれの問題に即して解説する。</p>
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	<p>領域としての平均正答率は市を上回っているが、漢字の読み書き問題の中に下回っている設問が若干見られる。</p> <p>○歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す問題では、正答率が100%であった。</p> <p>●「用言の活用について理解する」では平均正答率が50.8%で、課題が見られる。</p>	<p>・毎週実施している漢字テストを今後も継続していく。合格基準を設けて生徒の意欲を引き出すとともに、基準に達しない生徒への支援を適切に行う。</p> <p>・文法の復習問題に取り組む中で、基礎的な事項を繰り返し説明しながら、知識を着実に身につけさせていく。</p>

宇都宮市立一条中学校 第3学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	地理的分野	71.5	65.4	52.7
	歴史的分野	76.7	71.3	64.1
	公民的分野	74.4	71.8	68.7
観点別	社会的な思考・判断・表現	69.7	64.9	53.5
	資料活用の技能	72.3	68.0	57.3
	社会的な事象についての知識・理解	75.1	70.6	64.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。
 (社会では本市独自の設問が含まれるため、参考値は全設問に対応した値ではない。)



★指導の工夫と改善

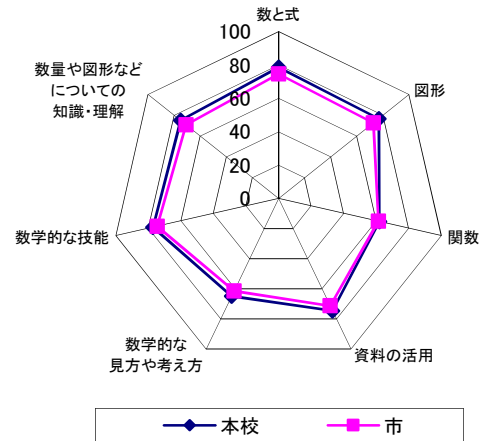
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
地理的分野	<p>○領域別正答率では、市の平均を6.1ポイント上回り、良く理解されている。特に、世界と比べた日本の地域的特色における日本の漁業の変化についての設問では、市の平均を11.7ポイント上回った。</p> <p>●アフリカ州についての設問で、カカオの生産に関する資料の読み取りの問題では、市の平均を0.2ポイント下回った。</p>	<p>○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの</p> <p>・世界や日本の諸地域における特色ある事象を、分布、立地、他地域とのつながりに着目させながら、地域的特色を把握できるよう工夫する。</p> <p>・特に、アフリカ州の農業については主要農産物の生産統計資料等を読み取ることで、資料活用の技能を高められる学習活動を実施したい。</p>
歴史的分野	<p>○領域別正答率では、市の平均を5.4ポイント上回り、良く理解されている。特に近代の日本と世界における西郷隆盛を中心として起こった西南戦争についての設問では、市の平均を13.4ポイント上回った。</p> <p>●近世の日本についての設問で、江戸時代の生活の様子についての問題では、市の平均を0.4ポイント下回った。</p>	<p>・歴史的分野では、近現代の我が国と世界の歴史の大きな流れを理解させ、各時代の特色や基礎的な内容の定着を図る必要がある。</p> <p>・特に、江戸時代の人々の生活については、当時の身分に関する複数の資料をもとに判断することで、社会的な思考・判断・表現を高められる学習活動を実施したい。</p>
公民的分野	<p>○領域別正答率では、市の平均を2.6ポイント上回り、概ね良く理解されている。特に、現代の民主政治と社会における議院内閣制についての設問では、市の平均を14.3ポイント上回った。</p> <p>●人間の尊重と日本国憲法における憲法改正の手続きについての問題では、市の平均を14.9ポイント下回った。</p>	<p>・公民的分野では、現代社会における政治・経済について理解させ、社会的な事象について考え説明したり、まとめさせる必要がある。</p> <p>・特に、憲法改正の手続きについては、基本的事項を再確認して知識・理解を高めるとともに、時事問題とも関連付けて考え、内容を深められる学習活動を実施したい。</p>

宇都宮市立一条中学校 第3学年【数学】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と式	78.6	74.7	72.4
	図形	76.7	72.7	62.3
	関数	62.0	61.3	52.1
	資料の活用	74.6	71.3	55.6
観点別	数学的な見方や考え方	64.9	61.4	45.2
	数学的な技能	77.2	74.6	69.7
	数量や図形などについての知識・理解	75.1	70.8	61.6

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

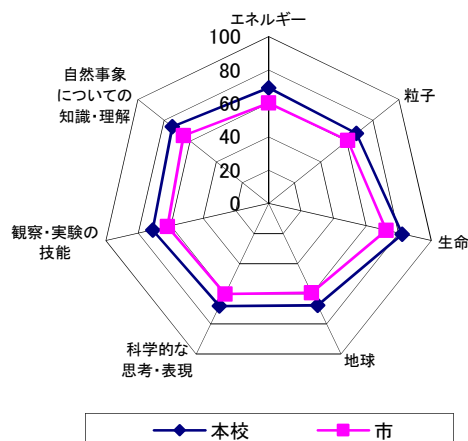
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	○領域別正答率では、市の平均を3.9ポイント上回っている。特に、「かっこを含む正負の数の減法」「1次式と数の乗法(分配法則)」「同類項をまとめる」などの計算問題においては90ポイントを超えている。 ●「乗法公式を使った因数分解」の問題においては40.6ポイントと市の平均は上回っているが、低い正答率であった。	・因数分解の共通因数と公式の複合問題においては、共通因数を見落とす傾向があるため、まず共通因数を探し、次に公式を使っていくという手順を再確認する。また、一連の手順が必要な問題を十分に含んだ問題演習を行うことで基礎基本の定着を図っていく。
図形	○領域別正答率では、市の平均を4.1ポイント上回っている。特に、「三角形の合同を証明する問題」においては、市の平均を9.8ポイント上回っている。 ●「底面積が等しく高さが異なる円錐と円柱の体積の関係についての説明を選ぶ」問題においては、市の平均を上回っているが、65.4ポイントと低い正答率であった。	・柱体と錐体の体積の求め方や、体積の関係が3:1であるということに適宜再確認する。また、単に体積を求める問題だけではなく、円柱と円錐を比較して底面の半径や高さの比について考えさせるなどの問題を取り入れ、基礎基本の定着を図るとともに思考力・表現力を高めていく。
関数	○領域別正答率では、市の平均を0.6ポイント上回っている。特に、「傾きと1点の座標から1次関数の式を求める」問題や、「y座標からグラフ上の点の座標を求める」問題においては4.7ポイント上回っている。 ●「グラフ上に頂点を持つ正方形の辺の長さを求める」問題においては、24.8ポイントと低い正答率であった。	・2乗に比例する関数を含め、これまで学習した関数のグラフの特徴について整理し、共通点や相違点に注目させ基本的な内容について十分に理解させる。また、表や式との関連を意識した学習を行うことで、グラフについての正しい知識の定着を図るとともに、思考力を高めていく。
資料の活用	○領域別正答率では、市の平均を3.2ポイント上回っている。特に、平均値に関する問題や「ゲームのルールを理解し、ゴールできる目の数の組み合わせを判断する」問題においては90ポイントを超えている。 ●「度数分布表から階級の相対度数を求める」問題においては51.1ポイントと低い正答率であった。	・1年の学習内容である「資料の整理と活用」については、2、3年の多領域の学習との関連を積極的に図り、繰り返し復習する機会を設けることで基礎基本の定着を図っていく。

宇都宮市立一条中学校 第3学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	エネルギー	69.4	60.2	57.6
	粒子	67.3	60.6	55.1
	生命	82.2	72.3	63.6
	地球	67.6	59.3	50.4
観点別	科学的な思考・表現	68.1	60.2	57.3
	観察・実験の技能	71.2	62.1	57.5
	自然事象についての知識・理解	73.8	65.2	57.8

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

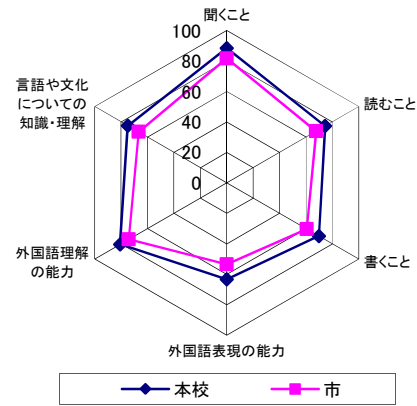
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	○領域別正答率では、市の平均を9.2ポイント上回っている。特に、水圧と水の深さの関係がわかる問題では、市の平均を13.7ポイント上回っている。 ●誘導電流の流れる向きがわかる問題では、正答率が5割を下回った。	・誘導電流の実験を行う際に、全員が実験により誘導電流を体感し、規則性について深く理解できるような授業の展開にしていく。そのために、実験のワークシートなどを改良し、思考の過程を表現しやすいように工夫する。
粒子	○領域別正答率では、市の平均を6.7ポイント上回っている。特に、硫黄と鉄の化合を化学反応式で表すことができるかを問う問題では、市の平均を12.9ポイント上回っている。 ●集気びんの中の酸素と鉄が結びつき、気体の体積が減少したことを指摘する問題では、正答率が5割を下回った。	・化学反応式から、どのような化学変化が起こったのかを多角的にとらえられるようにさせたい。そのために、化学変化前後の各物質の状態について指摘できるような機会をつくっていく。
生命	○領域別正答率では、市の平均を9.9ポイント上回っている。特に、メンデルの実験で子の代に現れた形質が、優性形質であることがわかる問題では、市の平均を15.5ポイント上回っている。 ●多細胞生物の成り立ちを理解しているかを問う問題や、孫の代に現れる形質の比がわかり、それぞれの遺伝子の組み合わせとその数を指摘できる問題では、正答率が7割を下回った。	・細胞が集まり組織がつくられ、組織が集まって器官がつくられ、器官が集まって固体がつくられるという流れを、視覚的にわかりやすく伝えられるようにする。 ・遺伝子の組み合わせを正確に表せるように、さまざまな遺伝子のパターンの練習問題を用意して、理解が深まるようにする。
地球	○領域別正答率では、市の平均を8.3ポイント上回っている。特に、飽和水蒸気量と湿度の関係を理解しているかを問う問題では、市の平均を14.7ポイント上回っている。 ●柱状図から、河口との距離がどうなったか推測することができる問題や、雲のでき方の正しいモデルを指摘できる問題では、正答率が6割を下回った。	・地層ができたときのようすと、現在の地層を関連付けて考えられるようにするために、大地の変動にどのような種類があるのかを理解させたうえで考えさせる。 ・雲のでき方を理解するうえで、水蒸気、水滴、氷の結晶の違いをはっきりさせてから行うようにする。

宇都宮市立一条中学校 第3学年【英語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	聞くこと	88.4	81.7	75.3
	読むこと	74.5	67.7	62.9
	書くこと	69.9	60.7	52.8
観点別	外国語表現の能力	63.3	53.5	44.8
	外国語理解の能力	80.8	74.2	67.8
	言語や文化についての知識・理解	74.9	66.8	63.0

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好的な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	<p>○領域別正答率は市の平均を6.7ポイント上回っている。絵を適切に表している英文を聞き取ること、対話の内容を聞き取り適切に応答することに関しては、90%を超える正答率であった。ある程度長い文章の内容を聞き取る問題でも80%を超える正答率であった。</p> <p>●対話の内容を聞き取り、資料をもとに英文で答える問題の正答率は約46%と低いが、市の平均と比べると20ポイント以上上回っている。</p>	<p>・普段の授業でクラスルームイングリッシュを基本とし繰り返し聞かせ耳をならせる。</p> <p>・ペア活動で簡単な英文を言い合う際、相手の言った英文を記録させ正確に聞き取り理解する練習を継続していく。</p> <p>・聞き取り問題を継続していく。</p> <p>・単語や文の発音練習では、デジタル教材を活用し、聞こえたように発音させることで英語の音声に慣れ親しませる。</p>
読むこと	<p>○領域別正答率は市の平均を6.8ポイント上回っている。対話文、長文などの読み取りの問題では、平均80%を超える正答率であった。</p> <p>●対話の流れとグラフから適切な語を判断する問題ではやや正答率が低かった。疑問詞+to不定詞の表現の理解も正答率が低かったが、市の平均と比べると若干高い。</p>	<p>・複数の情報から、内容を理解できるように、英文だけでなくグラフや表を使った内容理解の充実を図っていく。</p> <p>・普段の授業の中でも長文読解の際にはまず、大まかな概要を理解させてから細かい内容を把握できるように指導していく。さらに、内容を理解したうえで、その内容をふまえて自分の考えを述べるなど、表現力も育てていく。</p>
書くこと	<p>○領域別正答率は市の平均を9.2ポイント上回っている。まとまった内容で説明する文を書く問題でも、平均80%以上の正答率であった。</p> <p>●英文を正しい語順で書く問題では市の平均よりも正答率が高いが、文の途中で疑問詞が入る問題では、正答率が低かった。</p> <p>●対話の流れに合った英文を書く問題では、正答率は低かったが市の平均を10ポイント以上上回った。</p>	<p>・普段の授業の中で既習の文法事項を使って表現する練習を継続していく。</p> <p>・質問文に対する応答だけの会話活動をさらに発展させ、会話を続ける活動を積極的に取り入れる。</p> <p>・与えられた文を書くのではなく、自ら考えた文を自由に書く活動を取り入れていく。</p>